・次のかっこの中の助動詞の意味と活用形を答えよ。適度に拡大し、右の答えを隠して答えよ。

1	忘ら（るる）身をば思はず誓ひてし人の命の惜しくもあるかな	受身	連体形
2	こよひ、「かかること」と、声高にものも言は（せ）ず。	使役	未然形
3	愚かなる人の目をよろこば（しむる）楽しみ、またあぢきなし。	使役	連体形
4	ちはやぶる神代も聞か（ず）龍田川からくれなゐに水くくるとは	打消	終止形
5	契り（き）なかたみに袖をしぼりつつ末の松山波越さじとは	過去	終止形
6	和泉式部、保昌が妻にて丹後に下り（ける）ほどに、	過去	連体形
7	逢ひ見てののちの心にくらぶれば昔は物を思はざり（けり）	詠嘆	終止形
8	筑波嶺の峰より落つるみなの川恋ぞつもりて淵となり（ぬる）	完了	連体形
9	紫だち（たる）雲の、細くたなびきたる。	存続	連体形
10	おごれ（る）人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。	存続	連体形
11	立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来（む）	意志	終止形
12	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿る（らむ）	現在推量	連体形
13	あはれともいふ（べき）人は思ほえで身のいたづらになりぬべきかな	当然	連体形
14	わが背子と二人見ませばいくばくかこの降る雪のうれしから（まし）	反実仮想	連体形
15	春過ぎて夏来たる（らし）白妙の衣干したり天の香具山	推定	終止形
16	物語の多くさぶらふ（なる）、ある限り見せたまへ。	伝聞	連体形
17	かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知ら（じ）な燃ゆる思ひを	打消推量	終止形
18	敵に会うてこそ死に（たけれ）。	希望	已然形
19	天の原ふりさけ見れば春日（なる）三笠の山に出でし月かも	所在	連体形
20	吹き迷ふ風に、とかく移りゆくほどに、扇を広げたるが（ごとく）末広になりぬ。	比況	連用形